

平成30年度 大学出前授業（2年次）

実施日：平成30年10月18日（木）

目的：大学の先生の講義を拝聴することで、学部学科の学問内容、大学についての理解を深めるとともに、様々な研究分野への興味・関心を高め、進路選択の一助とする。

日程：13:30～13:40 HR
 13:45～14:45 模擬授業（1回目）（60分）
 15:00～16:00 模擬授業（2回目）（60分）
 16:00～16:30 レポート作成

開講講座：

	系統	大学・学部・学科・講師	講義タイトル
1	人文・言語	筑波・人文社会系（文芸・言語専攻） 矢澤 真人先生	次世代の国語辞書を設計しようー情報化社会における言葉の支援を考えるー
2	地域・観光	高崎経済・地域政策・観光政策 井門 隆夫先生	観光が拓く地域の未来
3	国際・異文化	獨協・外国語・交流文化 永野 隆行先生	オーストラリアを知ろう
4	法学	学習院・法・法 小出 篤先生	なぜ法学部は「つぶしがきく」のかー法学部案内
5	経済経営	獨協・経済・経営 山崎 尚先生	良い会社とはどのような会社か～会社の成績表とその見方～
6	体育・スポーツ	順天堂・スポーツ健康科・スポーツ科 山中 航先生	運動やスポーツが上手くなるための脳と身体のしくみ
7	教育	文教・教育・心理教育 会沢 信彦先生	”やる気”について考える
8.1	看護	茨城県立医療・保健医療・看護 綾部 明江先生	少子化時代における母子保健活動
8.2	看護医療	茨城県立医療・医科学センター 角 友起先生	筋肉が動く仕組み～筋肉が出す電気信号を見てみよう～
9	エネルギー	筑波・生命環境系 吉田 昌樹先生	食べ物から燃料まで：藻類バイオマスで何ができるか
10	化学	茨城・理・化学コース 島崎 優一先生	化学反応を違った視点から眺めてみると…
11	生命工学	茨城・工・物質科学工 木村 成伸先生	生命科学・生命工学「タンパク質分子をつくりかえる」
12	ナノテク工	茨城・工・機械システム工 伊藤 吾朗先生	アルミニウムのナノテク技術・科学

＜生徒の感想＞

【次世代の国語辞書を設計しよう】

高校までとは異なり、大学で聞かれたことに答える際には”evidence”が必要だという話は、高校と大学の明確な差の一つだと感じ、印象に残りました。大学で研究を行うためには、高校までの学びを完璧にした方が良いと聞き、現在行っている学習が将来の基盤になることを改めて認識しました。



【なぜ法学部は「つぶしがきく」のか】

法学は裁判官や弁護士、検察官のような職業に就く人が学ぶものだと思っていました。しかし実際は、法律とはいろいろな人が存在する社会を調節するためのものであり、それらの一つ一つがなぜあるのか、どう使うのかということを考えるのが法学部だと聞いて、前よりも身近に感じました。テーマである法学部は「なぜつぶしがきく」のかについては、問題意識を持ち、事案を分析、根拠を探し、論理的かつ説得的に議論を展開し、相手に伝える能力の訓練を行っているからだと理解しました。お話を聞いて法学に関する考え方が大きく変わりました。



【化学反応を違った視点から眺めてみると…】

今までの化学の勉強はテストのために暗記しているだけで、なぜそのような反応になるのかをまったく考えていませんでした。しかし、大学では覚えるのではなく、新しい発見をすることが目的であり、今までの概念をうちくずすことが大切だとおっしゃっていたことがとても印象的でした。これからは授業の内容に常に疑問を持ち、なぜそうなるのかを考えたいと思います。



【タンパク質分子をつくりかえる】

タンパク質は遺伝子組み換えの分野でとても大切な存在であると分かりました。遺伝子組み換えによって開発された医薬品は医療現場で欠かせない存在になっています。「生命科学・生命工学」はこれからの未来を大きく切り拓く分野であり、私たちもその一員となり得るという自覚をもって勉強していきたいと思いました。人間という生き物は物理的、化学的、生物学的に成り立っているため学類は違っても一つだという言葉が印象に残りました。



※この行事は、平成30年度一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業『海高プロジェクト』として実施しました。